

令和4(2022)年度決算 財務の概要

①貸借対照表の状況

- ・令和4(2022)年度末の「総資産」は18,382,919千円（前年度比で50,495千円の減少）、「総負債」は713,498千円（前年度比で31,732千円の増加）となり、その結果、「純資産」は17,669,421千円（前年度比で82,227千円の減少）となった。
- ・「有形固定資産」については、施設・設備の更新等により146,743千円の増加となったが、減価償却額及び固定資産処分差額の合計298,991千円の計上に伴い、全体では152,247千円の減少となった。
- ・「基本金」については、第1号基本金103,521千円を組み入れたことにより、本年度末の基本金残高は25,454,465千円、未組入高は57,143千円となった。

②資金収支計算書の状況

ア)資金収支計算書

- ・本年度の「資金収入（繰越支払資金除く）」は1,942,674千円となり、前年度比で100,350千円の収入増となった（前年度は1,842,324千円）。
前年度比による収入の主な増加項目は、学生数の増加による「学生生徒等納付金収入」11,049千円の増加と、「補助金収入」43,344千円の増加である。
「補助金収入」については、補助金獲得の取り組み強化等による、看護学部における大学改革推進等補助金（ウィズコロナ時代の新たな医療にできる医療人材養成事業）9,955千円の獲得のほか、私立大学等経常費補助金については前年度比で16,121千円の増加となった。また、修学支援新制度における授業料等減免費交付金については前年度比で17,415円の増加（授業料等減免費交付金は同額が奨学費支出にも計上される）となった。
- ・本年度の「資金支出（繰越支払資金除く）」は1,997,427千円となり、前年度比で187,057千円の支出増となった（前年度は1,810,370千円）。
前年度比による支出の主な増加項目は、「人件費支出」35,512千円の増加、「光熱水費支出」17,224千円及び全学的教学プラットフォームシステムの導入などによる教育・研究に係る「教育研究経費支出」63,077千円の増加のほか、看護学部における臨地実習シミュレーターの導入、東京メディア芸術学部におけるパソコン等の更新による「設備関係支出」40,941千円の増加である。また、宝塚南口サテライトキャンパスの開設及び宝塚ウェルネスアカデミー事業に係る初期費用等の運営資金（収益事業元入金）である「資産運用支出」が増加となった。

以上の結果、当年度の「資金収支差額（支払資金の増減額）」は54,752千円の支出超過（前年度は31,953千円の収入超過）となり、「翌年度繰越支払資金」は1,625,107千円となった（前年度は1,679,859千円）。

イ)活動区分資金収支計算書

本業である教育活動による資金収支の「教育活動資金収支差額」は、202,842 千円（前年度は 260,932 千円）となり、前年比で 58,090 千円の減少となった。

③事業活動収支計算書の状況

- ・本年度の「事業活動収入」は 1,871,988 千円（前年度は 1,803,148 千円）となり、前年度比で 68,840 千円の増加となった。

前年度比による収入の主な増加項目は、学生数の増加による「学生生徒等納付金収入」11,049 千円の増加と、「経常費等補助金」33,004 千円の増加である。私立大学等経常費補助金については前年度比で 16,121 千円の増加、修学支援新制度における授業料等減免費交付金については前年度比で 17,415 円の増加（授業料等減免費交付金は同額が奨学費支出にも計上される）となった。

- ・本年度の「事業活動支出」は 1,954,215 千円（前年度は 1,858,974 千円）となり、前年度比で 95,241 千円の増加となった。

前年度比による支出の主な増加項目は、「人件費」24,498 千円（退職給与引当金繰入額を含む）、「教育研究経費」65,570 千円の増加である。

以上の結果、「基本金組入前当年度収支差額」は 82,227 千円の支出超過（前年度は 55,826 千円の支出超過）、「当年度収支差額」は 185,748 千円の支出超過（前年度は 237,809 千円の支出超過）となり、当年度収支差額については前年度比で支出超過のマイナス幅が改善された。